



第 11 号

76 期の



— 内容 —

- 学年主任より
- 2 学期中間考査講評
- コラム ～私が今、伝えたいこと～



学年主任より

修学旅行が終わり、高校生活の折り返し地点が過ぎました。これからは、今まで過ごしてきた時間より、さらに月日が経つのが早く感じられると思います。

私が学年通信を書くときはいつも『76 期の WA』というタイトルを見て、初心にかえています。担任の先生たちでいろんな思いと願いを込めて『76 期の WA』にした日のことを思い出します。実は、この学年のスローガンが決まったとき、ひそかに「WA になっておどろう」を 76 期の学年ソングになればいいなと思っていました。ただ、コロナ禍の中、みんなで歌うことなどできないし、そんな思いを誰にも伝えられずにいました。しかし、今回の修学旅行で、私がひそかに思い描いていた夢を 76 期のみなさんが実現させてくれました。それは、修学旅行委員会で初めてレクレーションの話をしたときに、「WA になっておどろう」をみんなで歌って踊りたいと呟いたことをきっかけに、修学旅行委員さんたちが実現に向けて段取りをしてくれ、ルピナス（76 期音体部）や野球部のみんなが準備を進めてくれたおかげです。これまで、76 期みんなで何かをするという機会がなかったのので、「WA になっておどろう」をみんなが踊っているのをみて感動しました。夢をかなえてくれた 76 期のみなさんに感謝します。

みなさんが入学する前から願っている夢がもう一つあります。76 期のみんなが笑顔で岸高を卒業して未来に飛び立っていくことです。次の進路に向けて、みなさんの夢が実現するように、学年団の先生たちは 76 期のみなさんを応援します。修学旅行の教員のパフォーマンスは、北海道日本ハムファイターズを応援する「きつねダンス」で、受験生であるみなさんを応援したい思いをダンスに込めました。

残り半分の高校生活、全力で駆け抜けてください。応援しています！

（76 期学年主任 伊藤）



2 学期中間考査講評

現代文

前回も書きましたが、「抜き出しなさい」といわれたら、勝手に削除してはいけません。今回のようにスペルの英語は文字数がかぞえられません。ということは、そこは答えとしてふさわしくない、ということです。気を付けましょう。

今回、字数制限のない自由記述の問題がありました。解答欄が広すぎると感じた人は、解答内容に不足があるということです。逆に、狭すぎると感じた人は、解答内容が冗漫だということです。

最後に、漢字の書き取りは、トメ・ハネまで正確に書きましょう。

古典

最終日のテストで一科目のみの試験でしたので、正直言うと平均点ももっと高めを予想をしていました。そのつもりで出題しました。採点していてすごく感じたことですが、みんな勉強していないわけではない。今回欠点だった人も勉強していないわけではない。しかし、点数を取るまでやりこめていない。非常にもったいない、おいしい。別の言い方をすると詰めが甘い。

10月も終わろうとしています。この時期から古典に関しては、人並みの努力しかできなかった人に来年待っているのは因果応報です。奇跡を起こすにも「因」は必要です。

古典単語の配点は11点ですが、みなさん何点取れていたでしょうか？

全体の点数が悪くても、この古典単語で満点、あるいは一問ミスの人答案用紙には非常に気迫を感じました。「あからさまに」「うちつけに」「まめなる」このあたりを即答できないと大学受験古典のスタートラインにも立てません。

結局受験に勝つのは、努力を続けてきた人です。

「もったいない、おいしい。」と書きましたが、もったいなくならないように工夫をするのです。そして、他人がめんどくさがってやらないことを自分は丁寧にやるのです。それが勉強の本質に迫るのです。

期末考査のメインは、『源氏物語』『大鏡』です。作品を味わいつつ、楽しみつつ、確実に点数を取る努力をしていきましょう。できる！！

世界史

今回の考査は、アメリカ合衆国の発展・帝国主義、オスマン帝国の衰退、英国によるインドの植民地化～インドの独立、東南アジアの植民地化から出題しました。平均点は 54 点でほぼ 1 学期中間考査と同じ数値になりました。

世界史の定期考査も今回で 3 回目、出題者の問題に慣れてきた人もいるかもしれません。世界史の問題は、基本的には共通テストを想定した正誤問題を出しています。今後の試験もそういった正誤問題が中心になると思いますが、論述問題も数題は出題したいと思っています。今回はイギリスによるインド支配で採用された税制についての論述を出題しました。論述問題の解答で大切なのは、何を問われているのかをしっかりと理解して、問題の指示に従って答えることです。また、用語指定がある問題は必ずその語句を使って解答する。そして日本語の使い方に注意する。世界史の問題を解く際には国語力が重要になります。特に論述問題は正しい日本語を使って解答するよう意識してください。

例年、2 年のこの時期になると、科目選択で受験に世界史を使わないことが決まった途端に成績が下がる人がいますので気をつけてください。二学期期末はまず中国史を学び、その後、アフリカ分割、第一次大戦、第二次大戦と学んでいきます。二学期末までに第二次大戦を終えるのが目標です。小テストもまた実施しますので、日々の復習を心がけてください。

日本史

1880 年代以降の明治期における政治・外交・経済といった考査範囲でした。論述といい全体の平均点といい、1 学期に勝る出来栄でガンバってる（生徒が多い）なぁ～と感心しました。とくに論述は白紙だった生徒はわずかで、書こう！という姿勢が伝わりました。学校の授業だけでなく共通テストなど入試などでも、いわゆる思考力・判断力が問われる傾向にあります。論述でそのような力を鍛えてほしいし、分かる＆書ける時の嬉しさもぜひ励みにしてほしいですね。

さて、「文官任用令」「軍部大臣現役武官制」覚えてますか（大問 2 問 11）？いつの話で、どのような法令・制度ですか？そして、その目的は何ですか？一番〇が付いてほしいのに×ばかりでショックでした。「歴史の整理」プリントは、理解を深めたり大局的な見方をおさえたりポイントを示しているので、必ず復習の最初に確認！今後の授業でまた出てきます。むしろ正式名称とかおいといて、目的とか意図とかを意識しましょう。その方が、歴史の意義が見えてきますよ。

話はかわりますが、、最近『論語と算盤』という渋沢栄一という言葉（現代語訳）を集めたものを読みました。『論語』で金儲けは悪だと唱えているというのは勘違いで、孔子も金儲けを批判していない。道徳的に正しい行いによって得られる事業・経営は良いのであって、それが国家や社会のためになる。道徳（『論語』）と利潤（「算盤」）を調和させることが何よりも大切だ。といった旨の話です。授業でも出てくる渋沢栄一、もともと幕臣ですが実業家として活躍した人物です。CSR とか SDGs とか、ようやく渋沢栄一の考え方が国や世界に定着してきたのかな、と感じたりしました。また、とあるハーバード大学の教授が、日本の格差問題が他国と比べてマシなのは渋沢栄一のおかげだ！って言ってました。ほんまか！？ってかんじですが、とりあえず渋沢栄一は世界に誇れる人物だと言えるでしょう。明治期のまとめとして、渋沢栄一の紹介でした。

地理

今回の考査は、1学期の中間考査の時のように、1人1人にコメントをしながら、考査を返却しようと思っていましたが、考査問題（特に気候の内容）の解説に多くの時間を充てることにしました。その意図は特に気候の分野に関して、授業で得た知識や理解をどのように活用して正答にいたるのか、その過程を自分で納得感をもって、体感してもらいたいと思ったからです。

例えば、今回の考査であれば、気温の年較差の地域ごとの大小、内陸部と沿岸部の気候の違い、海陸風の特徴、東岸と西岸の気候の差異、大気大循環…などの理解を基にした知識のどれをどう活用し、正解に至るのか納得できたでしょうか？ 定期考査は当然、入試でも絶対に学習した知識を活用する問題が出題されます。今後もどの知識を活用するのかという視点で問題にあたってほしいと思います。知識そのものをストレートに問う設問は、とりわけ入試に至るとそんなにありません。今回、科目選択に関するアンケートの質問項目の一つで、今回の考査のふりかえりもしてもらいました。そこで「解説を聞いたらすぐ分かる問題もあった」って思った人は、しっかり解答のプロセスに納得感があるようですね。ぜひ次につなげていってほしいと思います。

一方で、「何を勉強したら解けるのかまだわからない」、「勉強したが、点数が伸びなかった。原因がわからない」などのふりかえりをしてくれている人は少し気になります。知識の確認はもちろんですが、1つの設問に対して、「どの知識を活用して、正解に至るのか」の視点を重視して、思考することを心掛けてほしいです。「どうやって勉強したらいいのか」の質問も受けますが、とにかくまずはどの知識を活用するのか思考することを重視してください。もちろん最終的に問題演習が必要ですが、問題にあたる際の視点や思考プロセスを2年生のうちに身につけておいてほしいと思います。

最後に、授業内容は引き続き気候の内容を進めていきます。授業でも何度も言っていますが、気候は産業の理解にも、地誌にもつながる地理の「最重要分野」です。この内容があいまいならば、絶対に入試でも高得点は取れません！ がんばりましょう！

数Ⅱα

正答率が良くなかった問題についてのコメント

5 $3^x + 5^y = \sqrt{15}$ のとき、 $\frac{1}{x} + \frac{1}{y}$ の値を求める問題。4 STEP 362 の類題。

6 (2) 真数が揃っている対数の大小を比較する問題。4 STEP 370(2) の類題。

9 (5) $3^{x+5} = 5^{3x}$ を解く問題。4 STEP 374(1) の類題。

10 (4) 2^{38} の最高位の数字を求める問題。4 STEP 389 の類題。授業でも扱ったはずである。

上記 4 問の解き方がわからなかった人は、課題への取り組み方が不十分といえる。今後に向けて、学習への取り組みを改めたい。

9 (7)対数を含む連立方程式の問題。4 STEP 380 の類題。

10 (5)(ii) 2^{38} の上から2桁目の数字を求める問題。

上記2問は発展問題であった。特に、10 (5)(ii)は初見の人が多かったと思うが、誘導に乗れば解けるように作問した。

ここに記載されていない問題は基礎的な問題ばかりであったため、間違えた人はその理由をよく分析すべきである。解き方がわからなかった人は、授業の内容が身についていなかったということである。今回の考査を、各自の学習習慣や授業への取り組みを見直す機会とし、今後活かそう。

数Ⅱβ

計算力が乏しいことと、勉強不足ということが露呈した結果であったと思います。

まず、計算力が無いと感じている人は、普段計算力を身に着けようと意識して取り組んでいるでしょうか？答えを広げながら、計算結果を見てしまっただけでは計算力は絶対につきません。自分で手を動かすしかありません。そのときに、『正確に』『早く』を意識してください。

次に、勉強不足について。時間をかけて取り組んでいますか？時間がない中では、解答の方針を考える時間が取れなかったり、解答とにらめっこをして、じっくり理解を深めることになっていきます。数学の勉強は時間がかかります。わかったつもりになっても、自分で解けるようになっていない人、取り組みの改善が必要です。

3 式がなぜ成り立つのか理解せずに用いている人が多いのではないのでしょうか。また、「導関数を表せ」について何をすれば良いかわかっていない人も、『教科書をしっかり読む』学習が必要です。

4 青チャート演習例題224の類題で、授業でも触れている問題です。授業の後に、理解を深める取り組みが疎かになっていた人、授業後の復習を大切にしましょう。

7 青チャート XERCISES147。入試問題ですが、基本的な知識を使いこなせれば解答にたどり着くはず。このような問題に食らいつけるように、粘り強く思考できる力をつけて欲しいと思います。

理系大学に進学を希望している以上、数学にける時間を増やしていきましょう。

数B

今回のテストでも計算ミスは多かったですが、それ以上に書きミスが多いのを感じました。答案を見直す等をして気をつけましょう。以下、それぞれの問題について書いていきます。

- ① 漸化式の基本問題です。解けていない人は確認しましょう。
- ② 共通テストに出てくるような形式の問題です。答えの形のように式を変形できるかです。
- ③ 指示された式から数列の一般項を求める問題です。(1)のcを求めることができれば(2)は隣接3項間の問題で求めることができます。
- ④ 授業等で取り上げられた一般項を求める問題ですが、(1)は逆数が存在することの説明を書くようにしてください。(2)は和の式から一般項を求める問題です。1学期期末での知識を確認しましょう。
- ⑤ 数学的帰納法での証明の書き方を身に付けてください。証明になっていない答案が多かったです。書きミスも多かったです。見直しをするようにしましょう。
- ⑥ 確率漸化式の問題ですが、漸化式を作ることができるかです。数学Aでの知識が必要です。数列の問題は他で習った内容が関係する問題が多いです。広く知識を持ちましょう。
- ⑦ 問題の式を見たときに何を言っているかわからないと思った人も多いでしょうが、解答を見てそうかと思った人もいます。頭を切り替え、もう一度問題を解いてみるとおもしろい問題だと思えるのではと思います。

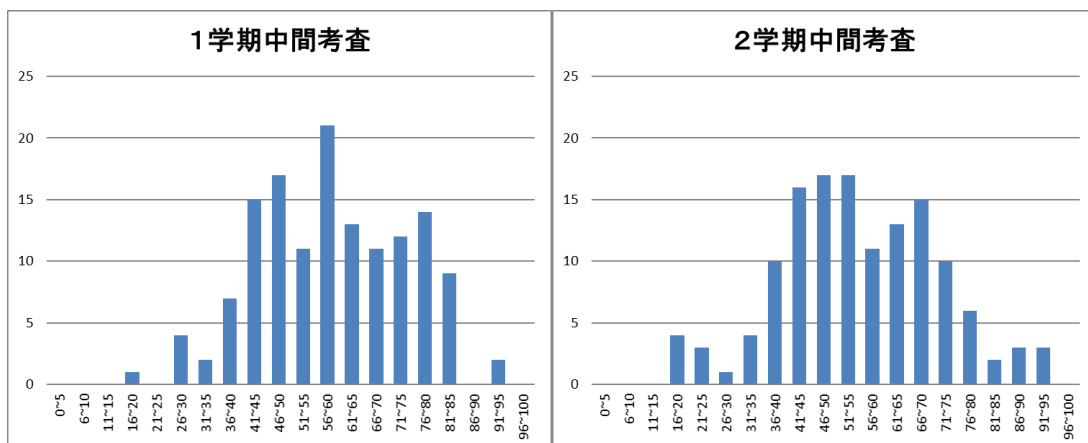
次はベクトルの内容になります。数列は今回で終わりになりますが、もう一度数列の内容を確認しておいてください。特に、理系の人はまた数列の内容を使う問題が出てくると思います。数列の内容を一からやることのないようにしてください。文系の人も共通テスト等で数列が必要になると思います。勉強しておいてください。

理数物理

授業でもテストでもそうですが、頑張っている人とそうでない人の差が広がっている、二極化が進んでいると感じます。

下のグラフは、1学期と2学期の中間考査の得点分布のグラフです。縦軸は人数、横軸は得点幅です。2つのグラフを比較すると、中間層が減り、上位層・下位層が増えていることがわかります。1学期中間の平均点は59.3点、2学期中間の平均点は55.3点と少し点数は下がっていますが、上位層が増えていることから、「問題が難しくなった」というよりも「**理解・勉強が不足している人が増えた**」と考えられるのではないのでしょうか。また、1学期の時点から二極化が見られる分布(46~50点、76~85点にピークがある)でしたが、2学期の分布図を見ると、さらに二極化が進んでいるように見えます(平均点のピークが小さい、裾が広がっている)。

2学期期末考査の範囲は、万有引力と単振動で、どちらも運動方程式を扱う発展的な内容です。これまでの学習内容を理解しておく必要があるので、今回はダメだったけど次は頑張りたいという人は、中間範囲(特に円運動!)を復習したうえで、テスト勉強に取り組んでください。



理数化学

今回の範囲で出題された『熱化学方程式』については、左右を結ぶ“＝”を“→”で書いてしまっている人が少なからずいました。熱化学方程式の形が化学反応式と似ているので、これら2つを混同してしまっていたのかもしれませんが。他にも、化学式の後の“(液)”や熱量の単位(kJ)が抜けていたり、左右を逆にしている人もいました。もちろん今回間違えてしまった人は十分注意してほしいですが、正解した人も、「自分もこういう間違いをしてしまうかもしれない」と心に留めておいてください。

電池・電気分解は、各電極で起こる反応さえ書いてしまえば、後は流れる電子を中心とした量的関係でほとんどの問題は解くことができるので、とりあえず各電極で起こる反応式をしっかりと書けるようになっておいてください。

(文責：石原裕)

理数生物

考査の平均点は60.4でした。昨年までにならっていた代謝の概要を忘れている人もいたので、まずは異化・同化の代表例をしっかりと復習しておきましょう。(両者を混同してしまっている人もいるように思いました。)反応の途中でいろいろな物質が出てきますが、まずは物質の炭素の数を意識して一連の流れを理解しましょう。暗記ばかりにとらわれるのは良くないですが、どうしても暗記しないといけない必要事項もあります。時間をみつけてコツコツと積み重ねていってください。

【1】問5はニューグローバルP.69³⁹と類似の問題です。テストのやり直しの際には、ぜひ問題集の方もあわせて復習してください。

英語Ⅱ

●コメント

学年平均は 43 点。

大問	小問	内容	テキスト	満点	自分の点数	内容
1		リスニング	FoL	16		
2		語彙	シスタン	8		① ④
3		語彙	シスタン	6		① ④
4		語彙	ワーク	8		① ④
5		語彙	教科書	6		① ②
6		語彙・文法	ワーク、RC	12		① ④
7	1	語彙・文法	ワーク	2		① ④
	2	語彙・文法	教科書	2		① ② ③
	3	語彙・文法	教科書	2		① ② ③
	4	語彙・文法	RC	2		① ④
8		読解	教科書	8		②
9		読解	教科書	8		②
10		読解	ワーク	4		④
11		読解	実力	10		
12		語彙・文法	教科書	6		① ② ③

内容	満点	自分の点
①語彙・文法	54	
②教科書	32	
③Translation	10	
④自分でコツコツ	42	

①大問 2、7、12 (計 54 点) が低かった人へ

→ 読解の基礎となる語彙や文法を問う問題。低かった人は今後、さらに苦勞します。今まで以上に Bright Stage や構文 150 で文法の復習をしましょう！ 今まで以上にシスタンの勉強をしましょう！

②大問 5、7(2)(3)、8、9、12 (計 32 点) が低かった人へ

→ 教科書 L7 からの出題。真面目に予習し、真面目に授業を受けていたら、かなりの点数が見込める問題でした。予習をし、授業を聞き、復習をしましょう。

③大問 7(2),(3)、12 (計 10 点) が低かった人へ

→ ワークシートの Translation (計 8 文) から出題された問題。進級があやういレベルの人は、テスト前にまず Translation の文を徹底的に勉強しましょう。ここから出題されないわけがありません。

④大問 2、4、6、7(1)(4)、10 (計 42 点) が低かった人へ

→ 自分でコツコツ取り組む必要があるシスタンやワーク、Reading Core から出題された問題。提出しなければ勉強できないようではいけません。

また、ワークや Reading Core の問題を一度解いただけでは不十分です。それで単語や熟語が書けるほど記憶に定着するということはありません。そのことはシスタンで十分痛感しているはずですが、ワークや Reading Core の問題を解いたあと、何度も何度も単語や熟語を覚える努力をしてください。何度も覚えるためには、テスト直前に取り組んでいるようでは手遅れです。

修学旅行が終わったので、受験モードに切り替えましょう！

テスト直前に一気に勉強するのではなく、日頃からコツコツ勉強しましょう！

●問題の解説・コメント

③ 派生語

Q	A	B	C	D
1	astronomer	astronomy	linguist	(1)

「学問」である linguistics と答える必要があったが、linguistic と答える人が多かった。linguistic は「言語(学)の」という意味の「**形容詞**」である。-ics という形で終わる「学問」には、mathematics、physics、ethics、economics、statistics、dynamics、genetics などがあります。

⑤ 発音

アクセントの位置とその発音の2つが分からないと解けない問題。

問題文をよく読まずに、アクセントの位置を問う問題だと決めつけて解いた人も多いのではないだろうか。テスト中にも言ってますが、問題文をよく読みましょう!

(1) 7. <u>le</u> thal	1. pre <u>ey</u>	7. reve <u>al</u>
i:	ei	i:
(2) 7. <u>nou</u> rish	1. sw <u>ar</u> m	7. hos <u>t</u> ile
(米)ə:	o:	(米)ɑ:
(英)ʌ		(英)ɒ
(3) 7. ob <u>ta</u> in	1. we <u>ir</u> d	7. deg <u>e</u> nerate
ei	iə	e

また、発音・アクセントを覚えるために、音読だけでなく（口と耳だけでなく）、発音記号等も使いましょう（目も使いましょう）。

⑧ 読解

Bacteria are nourished by the nutrients in the hot water and then the crab feeds on ①them.

①them は文頭の Bacteria をさしている。bacteria と解答すると、採点者に「この解答者は them が別の bacteria をさしていると解釈している」と取られる可能性があります。文頭の Bacteria をさしていることを理解しているとアピールするためにも Bacteria と答える方が無難。

⑨ 読解

(1) ~ (3) チューブワームとバクテリアの関係を理解しているかを問う問題。

...the (ア) provides the (イ) with room and ①board, and the (ウ) pay the (エ) back with nourishment.

下線部①が表しているものの具体的な名称は hydrogen sulfide である。the hydrogen sulfide と答えた人も多かったが、本文にある the hydrogen sulfide の後ろには、関係代名詞節 the tubeworm takes in through its bright red plume が続いている。修飾語句は修飾されている語句とセットなので切り離さない。「英語を話せる人」と修飾語句を切り離した「人」は同じものを表していないですよね?

⑩ 読解

ワークブックの L7 の「入試問題」から出題。本文に出てくる Compared to the cold, murky waters of the temperate seas, tropical seas limit the number of animal plankton, which makes their water clear, yet with very low food resources. の which は、直前の animal plankton ではなく、tropical seas limit the number of animal plankton をさしている。

続く

英語Ⅱの続き

12 和訳

(1) The water coming out of deep-sea thermal vents can get as hot as 400 degrees Celsius, though even at that temperature it doesn't boil.

- can get・・・【可能性】の can なので、「達することができる」は不可。「達することもある」「達しうる」「達する可能性はある」と訳す
- as hot as 400 degrees Celsius・・・この as～as は強調の as～as。「同じぐらい」の意味じゃないのいので、「摂氏 400 度ほど」という訳は不適切。また、Celsius があるので「摂氏 400 度」「セ氏 400 度」と訳す。
- even at that temperature・・・「その温度で(さえ)も」。直前に though があるが、even though ではないので注意。
- この 1 文は、深海という過酷な環境にも適応し、生きている生命を紹介するための導入文である。「深海」や「400 度」という過酷さを示す前半部分が大事であり、後半の「沸騰しない」は補足的な、追加の説明であると考えられる。「もっとも～だが」と訳せてほしいところ。

(2) Life may have evolved on other planets that have water and volcanoes, just as it has on the earth.

- it has・・・it は「life」を、has は「has evolved」を表している。問題文の指示によりこれらを明らかにする必要があるので、「生命」「進化してきた」は 2 回訳出する必要があった。
「生命は、生命が地球で進化してきたように、～他の惑星で進化してきたかもしれない」
↑
↑あまり綺麗ではない訳し方
- on the earth・・・「地球の(生命)」と形容詞的に訳している解答が多々あったが、副詞句である。「前置詞＋名詞」は「形容詞句」なのか「副詞句」なのかよく考える必要がある！
- just as・・・「ちょうど～ように」「まさに～ように」。教科書の訳は「ちょうど」や「まさに」が訳出されていないが、本当は訳出する方がよい。

英語構文

平均点47点。10点20点代の人続出でした。定期テストは基本事項（2年生で絶対押さえてほしいポイント）ができているかを確認するテストです。ここで満足な点が取れていないのに、模試や実力テストでよい点がとれるわけはありません。今が受験勉強を始める最後のチャンスです。何をやるべきか悩む前に、目の前の小テストや授業の予習や、小さいと思えることから努力してゆきましょう。英語の構文150のテキスト類は世の中の受験生ほぼ全員がやっています。たとえ、定期テストで出題されなくても、あなたのためになります。コツコツやるべきです。頑張ってください！

さて、テストの話です。応用問題は大問（5）の並べ替えのみ。後は授業で説明したものばかりです。とにかく授業を大切に、暗記しないといけないものはきちんと暗記する！語数指定がないものは、いろんな書き方でokですが、中途半端な解答が多かった。とにかく予習・授業・復習の繰り返しからです。頑張ってください。（試験の講評というより、みんなへのエール?でした（笑）

④ 7)

The last person (to leave the room) has to turn off the light.

教科書の模範解答に関して、使うのを避ける方がいいものを2つ紹介します。

- ①leaveの代わりにget out ofという表現が教科書の解答に載っていました。get out of the roomは、「努力や苦勞して部屋から出る」時によく使われます。部屋から出るときに努力や苦勞がいる時とはどんな時でしょうか？ 災害が起こった時？ 何らかの原因で部屋に閉じ込められた時？ そんな時に電気を消している場合ではありません。
- ②不定詞や関係詞の代わりに現在分詞が the last person を修飾している解答が載っていました。ネイティブの先生に確認したところ、lastがある場合、普通現在分詞は使わないとおっしゃっていました。

⑧ 【C】

In America alone, tipping is now ...⑦all the more surprising since it is strange behavior.

Itはtippingをさしています。構文150の解答は「チップ」となっていたましたが、「チップを払うこと」と訳す方がより正確です。「チップ」は「お金」を、tippingは「行為」を表します。



コラム ～私が今、伝えたいこと～

普段授業などでは言えていないが、生徒たちに今、伝えたいメッセージ（叱咤激励、アドバイス、感想、連絡）がないか、学年団の先生方に伺いました。

以下、回答があった先生方の分を載せています。

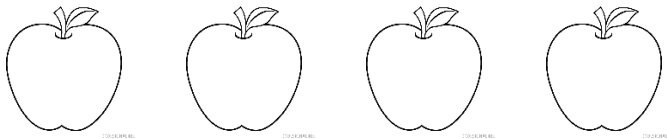
三好

①修学旅行のアンケートについて

みなさんの回答を見ました。各項目の「5. よくあてはまる」「4. あてはまる」を見るだけでも嬉しかったです。最後の「その他、伝えたいこと」で「楽しかったです」などわざわざコメントしてくれている人がおり、よりいっそう嬉しくなりました。4月から修学旅行までの約5か月間、精神的にも肉体的にも苦しい日々が続きましたが、頑張ってよかったと心から思っています。生徒のみなさん、修学旅行委員のみなさん、先生方、ありがとうございました。

②課題研究がある学年なので、（今更ながら）自分が大学の研究で参加者にしてもらったタスクを紹介します。

Here are four apples.



以下の指示①、②に従って、↑に絵（記号）を描いてください。

①Please draw stars on 3 apples.

描けましたか？ 続いて、

②Now, please draw lines below the apples.

描けましたか？

上記の2つの指示に従った結果、どのような絵になったでしょうか？

描かれた絵が何を表すのか、続きは web で（→）。

